

イギリスの旅行時間信頼性に関するインタビュー調査

Application of Time Reliability Benefits in UK

樋野誠一¹

Seiichi HINO

1 目的

新道路技術会議で研究中の道路整備による旅行時間の信頼性向上について、先行するイギリスの関係者に、その考え方や適用の実態を、東京大学・加藤浩徳教授に同行してインタビューした。

2 インタビューについて

インタビュー先は右表の通り6件で、イギリスの事例のインタビューの他、我が国の費用便益分析の課題や新道路の取り組みを紹介するワークショップ形式とした。実務者へのインタビュー3件は筆者が対象者を選んだが、渡航日3週間前で渡英が決まったため、時間的余裕が無い中での調整となった。特に実務家への取材は論文が20年前と古く、連絡先不明などで調整は難航した。執筆者の一人で当時の経緯を知るジョン・ベイツ博士について共著者に問い合わせるなどして、インタビューに漕ぎ着けた。

最近の機械翻訳のおかげで、以前と比べ英文作成の生産性が高くなったが、それでも慣れない作業とあって1本のメールにも半日がかかりとなった。

ロンドン5泊のうち市内でのインタビューは水曜だけで、それ以外はリーズ2日間（月、木）、ケンブリッジ2日間（火、金）のインタビューとなり、毎朝特急で移動する日々であった。これまた慣れない移動のため、朝の特急に乗り遅れたり、帰りの特急では季節外れのハリケーンの影響で迂回ルートを回ったりと記憶に残る道中となった。夜は加藤先生の在英御友人との会食にご同席させて頂くなど、ロンドンの日常を垣間見ることができた。

このうち、ベイツ博士へは、オックスフォード郊外のご自宅で、野生のリスが駆け回る、イギリスの典型的なガーデンを眺めながらのインタビューとなった（写真-1）。

これらインタビューの成果と、それを受けた対応は、今後、国内外の論文やセミナーにて詳述する予定である。加藤先生には、同行する貴重な機会を頂戴し厚く御礼申し上げます。

上げます。

表-1 インタビュー先一覧

日時	インタビュー先	質問内容
2023/10/30 (月)	ナショナルハイウェイ、交通計画グループ、アリソン・コックス氏ら	高速道路の交通量推計と時間信頼性について
2023/10/31 (火)	インペリアルカレッジロンドン、交通工学モデルセンター長、D.J.グラハム教授	エビデンス検証。イギリスの費用便益分析の外部効果について
2023/10/31 (火)	ジョン・ベイツ氏、信頼性式推定の民間コンサルタント	時間信頼性式の考え方と実証について
2023/11/01 (水)	運輸省、交通評価と戦略モデル部、ロビン・キャンベリー氏ら	費用便益分析マニュアルにおける交通量推計と時間信頼性について
2023/11/02 (木)	リーズ大学交通研究所、交通需要評価研究室、リチャード・バトリー教授	時間信頼性についてワークショップ
2023/11/03 (金)	ケンブリッジ大学建築学科、土地利用研究室、インジン教授、マーシャル・エシュニック名誉教授	時間信頼性についてワークショップ

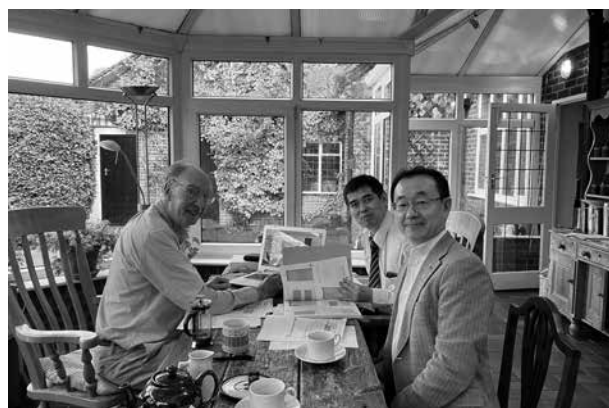


写真-1 ベイツ博士取材風景（加藤教授とともに）

¹ 交通・社会経済部門 グループマネジャー